

令和2年度 出資団体監査の結果（指摘・意見・リスク発現の可能性のあるもの）に基づく措置状況等の報告

- 1 監査の種類 出資団体監査
- 2 監査対象 株式会社四日市市生活環境公社
環境部生活環境課（出資に関する事務の所管所属）
- 3 監査実施期間 令和 3年 1月12日

【株式会社四日市市生活環境公社】

指 摘

特になし

意 見

- 1 想定されるリスクからの着眼点に着目して行った監査結果

特になし

- 2 3E（経済性、有効性、効率性）及びSDGs等の視点からの着眼点に着目して行った監査結果

意 見	措置（具体的内容）・対応状況
① CS（顧客満足度）、ES（従業員満足度）からの視点について【有効性の視点】 新社屋を建設、移転することにより、ES（従業員満足度）の向上が図られる。ES（従業員満足度）の向上は人材確保やCS（顧客満足度）につながるという意識を持って進めていただきたい。	【 継続努力 】 令和 3年 9月30日 新社屋の建設と移転に際し、職員の意識改革と職場環境を改善することで従業員満足度を高め、また、組織統合に伴う人員の有効活用により業務の効率化を図り、企業理念である真心をもって地域に奉仕することでCSの向上に取り組んでいく。
	【 措置済 】 令和 4年 3月31日 働きやすい職場環境にするため、間取りや備品については可能な限り職員の要望を取り入れた。また、本社移転に伴う組織統合により、業務が効率化され、人員の有効活用が図られることでCSの向上につなげていく。

<p>② 富田・富洲原・塩浜霊園枯花等収集業務について【有効性の視点】 多死社会に向けて、無縁墓が現在増加している。無縁墓の回避のために枯花の状況、管理が行き届いていない墓の状況を生活環境課に伝えるなど、時代の現状をとらえた情報提供ができるような仕組みについて研究すること。</p>	<p>【 検討中 】 令和 3年 9月30日 現在受託している枯花等収集業務については、各区画からの収集ではなく、墓地使用者等が枯花を廃棄するための場所として市が墓地入口に設置した置場から収集する形となっている。そのため、各区画の管理状況を把握する状況にないが、今後、市より管理状況の確認業務を委託された場合は対応できるよう検討する。</p>
	<p>【 措置済 】 令和 4年 3月31日 現在受託している枯花等収集業務については、各区画からの収集ではなく、墓地使用者等が枯花を廃棄するための場所として市が墓地入口に設置した置場から収集する形となっている。そのため、各区画の管理状況を把握する状況にないが、枯花収集業務を行う中で、無縁化が懸念される墓を発見した際は市に情報提供する。</p>
<p>③ レンタルトイレ業務について【有効性の視点】 仮設トイレは、狭い、臭い、暗い、段差があるなどの課題があり、一部には鏡や荷物を置く場所がないものもある。また、男女が分かれておらず安全面に不安が伴うなど、女性や高齢者が安心して使用できるよう、費用対効果を見極めながらさらに工夫や開発を行い、新規の顧客獲得につながるような視点を持つこと。</p>	<p>【 措置済 】 令和 3年 4月 1日 弊社のレンタルトイレは顧客のニーズに合わせ、快適に使用できるよう鏡、コートフック、棚が標準装備され、室内空間が内寸で他メーカーと比較して30cm程度広く、また、臭いが漏れにくい構造の仮設トイレや車椅子用トイレも導入している。更に、効果を高めるため消臭剤入り洗浄水を使用したり、容易にトイレ様式（和式から洋式）の変更ができるよう独自に改造を行っており、顧客の増加に繋がっている。</p>

④ CSR（企業の社会的責任）及びSDGsの視点の導入について【SDGsの視点】

社訓からは、社会貢献的な文言が見られない。事業で利益を確保することは当社の大きな目的、実行責任であるが、CSR及びSDGsの視点を意識した企業として経営していることを示していくこと。
※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連の持続可能な開発目標のための国際社会共通の目標であり、2030年までに達成するために掲げた17の目標である。

【 継続努力 】 令和 3年 9月30日

CSRについて、公社の使命は企業理念にある「私たちは真心をもって地域に奉仕します」であり、市民生活を支える担い手として誇りと責任をもって業務に当たり、市民から信頼される企業として社会的責任を果たしている。また、地震などの災害時には、避難所へのレンタルトイレ搬入、し尿収集運搬を迅速に行うとともに、災害ごみの回収業務を市と協調して行い、第3セクターとしての社会的責任を果たしていく。

SDGsの視点から、取り組んでいる事例としては以下のとおり。

「ジェンダー平等を実現しよう」… 平成30年度から女性作業員1名を採用し、男女平等に業務に従事しており、作業員詰所には女子用トイレを新設し職場環境にも配慮している。

「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」… 新社屋には、太陽光発電と蓄電設備を設け、社内電力にはクリーンエネルギーを優先して使用する。また、災害時には既存建物を地域住民の避難所に開放する予定であり、停電時に非常用電源としての使用が可能となっている。

「働きがいも経済成長も」… 令和4年4月に事業部2課の組織統合をすることで、し尿収集業務と資源物収集業務を相互に補完し合う体制を構築し、職員の意識改革やユーティリティプレイヤーの育成を行うとともに、市民サービスを向上させ、働きがいのある職場環境を整備することで職員の安定雇用を実現していく。

「人や国の不平等をなくそう」… 新社屋には、車椅子用の斜路と出入口、障がい者用のトイレを設け、建物内をバリアフリーで往来できる、障がい者に優しい環境整備を行っている。

今後取り組んでいる事例については、会社案内やホームページ上に掲載するなどして社外に示していく。

【 継続努力 】 令和 4年 3月31日

地元への社会貢献として、2月の本社移転後、旧事務所を災害時の避難拠点として地元住民に提供することについて連合自治会長に対し説明した。

<p>⑤ 収益性と内部留保について【有効性の視点】</p> <p>四日市市等からの受託事業に伴う収入が大部分を占めていて、その収益性は近年良好な状況が続いている。当社の自己資本比率も74%と高く、安全性からも異論はないところではあるが、近々に予定されている本社移転計画の財政負担も考慮して、長期的な展望で経営の安定化を望むところである。一方、獲得した利益については、当社設立の経緯や果たすべき社会的責任を十分に踏まえ、税負担を除いては社外流出か内部留保かの検討も必要である。</p>	<p>【 継続努力 】 令和 3年 9月30日</p> <p>内部留保については、本社移転に伴う建設費用等の支出があるなか、車両の更新、職員の退職金の費用負担が年次的にあり、限られた資産を将来の経営に有効活用できるよう取り組んでいる。また、移転を見据えた経営計画を策定しており、定期的に更新を行うことで安定した経営が継続できるよう、今後も経営努力する。</p>
	<p>【 継続努力 】 令和 4年 3月31日</p> <p>本社移転完了後も、車両更新と職員退職金の費用負担は年次的に生じることになるが、支出時期が重ならないよう車両の更新を計画的に実施し、引き続き安定経営を図っていくこととする。</p>

リスク発現の可能性があるもの

監査結果	対応状況
<p>(5) 事業継続性のリスク</p> <p>ア 職員の年齢層に偏りはないか</p> <p>リスク発現の可能性 (○予防策あり、△可能性あり、×発現)</p> <p>× 年齢層に偏りがあり、安定的な事業継続を行うために職員の募集をし、採用を行っているが、排水施設課のパート職員については定着に結びつくことが難しいとのことである。引き続き募集をし、職員の確保に努めることが必要である。</p>	<p>【 対応状況 】 令和 3年 9月30日</p> <p>排水施設課における年齢構成の偏り解消と職員確保に向け、市内にある高等学校に新規高卒者求人募集を行うとともに、ハローワークへ既卒者の求人を継続して行った結果、令和元年度以降、正規職員5名(10代2名、30代2名、40代1名)、臨時職員2名(60代2名)、パート職員4名(50代1名、60代3名)の採用に至った。また、職員の安定確保のため、今後も募集を継続的に行っていくこととしている。</p>
	<p>【 対応状況 】 令和 4年 3月31日</p> <p>令和3年11月9日から11日までの3日間、次年度以降の新規高卒者採用を念頭に置き、排水施設課においてインターンシップの実施を計画し、高校2年生2名を受け入れた。また、ポリテクセンターに求人募集を行うなど、職員の確保に向けて幅広い採用活動を行った。</p>

【環境部生活環境課】

特になし